

7月の生活表

2024年 7月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：こちよく

保育日数（21日）

月目標：＜3歳児＞

- ・保育者の祈りを通して、自分も友だちもかみさまに愛されていることをくりかえし聞く
- ・自分の思いを表現しようとする。また思いが通らないことを経験したり、共感され安心したりする
- ・水、泥遊びなどを思いっきり楽しみ、気持ちよさを感じる

＜4・5歳児＞

- ・賛美することや祈ることの心地よさや喜びを知る
- ・五感を使う楽しさやおもしろさを経験し、新しいものにも挑戦する
- ・花や野菜の世話、生き物の飼育をしながら、自然の営みのおもしろさや命の大切さを知る

遅い梅雨入りを迎え、やはり京都、いえ日本の梅雨の息苦しさは半端じゃないですね。何もなくても汗が出る状態。しかし何もしない訳にはいかない。皆様はどのようにこの蒸し暑さやこれからやってくる灼熱に対応しようとお考えでしょうか。

誰もが、子どもの時は、暑くっても寒くっても友だちと遊びを作り出していたよなあと思います。本当にそうなんです。汗をかきながらも懸命に自分のしたい遊びを見つける、寒い冬でも冷たい水と戯れることを厭わない。そんな子どもたちの姿を見て、私たち大人は、家（個）で幼稚園（集団）でどのように子どもたちをサポートすれば良いのかと考えます。特に私たちに任されたこの園での子どもたちの日々に対して、主体というものをどこに位置させるのか、どの場においてそれを認め、私たちはどのように控え、また深めるために子どもたちの遊びの環境を整えるべきなのかと考えます。主体性ということをつめた時の当園の保育のあり方を直近の教育要領に則って考えてみると、*自由保育（＝見守り・非認知能力教育・プロセスの評価）と*一斉保育（教育的援助＝指導・認知能力教育・結果の評価）があり、その両者が相対するのではなく、両者ともが大切であるという「共主体」という考え方が、今日日本の保育をアップデートさせるものだと言われ始めています。当園で永きにわたって踏襲してきたこの両者の相まった保育形態。今まで、設定（一斉）保育を続けてきている中でも、一人一人の子どもたちが、投げかけられた問いや課題にどのように「主体的」に関わろうとするのかをそれぞれの言葉や様子やその心の内にできるだけ添い、お友だちの前で、自分を出出できるよう支援を続けてきているつもりです。ここ近々「主体的に」という言葉がクローズアップされてきていますが、何でも自分で、自分からという言葉の裏にあること、ものに違和感を感じていましたが、ここに来て「共主体」という言葉が投げかけられたことにより、子どもと先生の両方の「主体性」を併せ持って、保育の質を高めようという考え方に大きく領いてしました。「考える」「考えてみる」ことに会う。その前の段階では、以前にお示した「集中して遊んでいる時に育つ力」のスパイラルですね。じっくり取り組んで楽しむ一人遊び（年齢や、自分の興味関心により異なります）からお友だちとの関わりを求めて、遊びを広げ、共に作り出していこうとする共同性の中で、育ち合う力の大切さに繋がっていきます。そこには、人（個）を知ること、多様性を自分の中で消化して受け入れることも大切になってきます。教員自身のアンテナがしっかり張られ、時代の変化に対応できるスキルアップを求め、研修への参加が必須になってきます。私たちは一人一人の子どもたちの成長を願い、保護者の皆様のご協力に感謝し、一学期が無事に終わられますよう願います。

《チャプレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：わたしは道であり、真理であり、命である

月聖句：隣人を自分のように愛しなさい。（マルコによる福音書 12：31）

ルカによる福音書 10：25－37に、次のようなお話があります。

ある人が旅をしていました。旅の途中で、強盗に襲われました。強盗は身ぐるみはぎ取って、その上暴力を振るい、彼を半殺しの目に遭わせました。しばらく経った後、一人の祭司がその場を通りかかりました。しかし祭司は彼を見捨てて立ち去ってしまいました。その後、一人のレビ人が通りかかりましたが、同じように立ち去りました。その後、一人のサマリア人が通りかかりました。サマリア人は彼を見ると近寄って手当をし、近くの宿屋で夜通し看病し、次の日、宿屋の主人に看病をお願いし、費用を渡し、「帰りに再び寄ります」と言って、自分の用事のために出立しました。

お話は以上ですが、少し背景について説明が必要です。祭司は言うまでもなく宗教者、レビ人も同じような宗教者です。サマリア人は、歴史上の因縁から、ユダヤ人とはとても仲が悪い人々です。この物語は、立場を顧みず困っている人を助けたサマリア人に注目し、愛とは、立場を超えた普遍的なものであることを教えてくれています。

イエス様は私たちに愛を教えてください。その愛は、一貫して行動を伴うものです。祭司やレビ人のように、口先だけで実践が伴わないものは愛ではなく、サマリア人のように、日頃敵対している人にさえ、困っているときには即座に助けるために行動を起こし、共に生きてゆく、それが愛です。

愛は、「恋愛」を超えた、より深いものなのです。

この様な愛を、子どもたちに伝えようとするとき、言葉だけでなく、行動が必要です。愛は、口先ではなく、愛を行う背中をとおして伝えるものなのでしょう。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆夏の生活習慣を身につけさせましょう。（自身の気付きと習慣の確立）

- ・ 日中の気温と、夜の気温の差を気にしながら、体調を整えましょう。
- ・ 自然の風を体感させましょう。（クーラーの使用頻度／適温設定27度に）
- ・ 手洗い・うがい・毎日の入浴（シャワー）・シャンプー・爪切り、耳あかなど、こまめにチェックしましょう。子ども自身も気付くように。
- ・ 冷たい物の暴飲暴食を避け十分な休息・バランスの良い食事を摂りましょう。

☆夏の自然を親しみ、豊かな経験と活動をさせましょう。

- ・ 身近な自然に触れて観察し、不思議な世界を知らせましょう。
- ・ 夏の夜空・夕立・雷等の今の自然現象をご家族と共に親しんでみましょう。

☆一学期に身につけた生活習慣を崩さないように心がけましょう。

☆さあ、夏休みはどんなふうにして過ごそうかしら？子ども自身の心身共の自律（親の我慢が大切です）に向かって様々な経験を良い機会として捉えましょう。

- ・ 家の中でのお手伝いの計画（役割分担）も大切です。
- ・ 身近な所での身近な経験、続ける根気を養い乍らの時間利用を有意義に。
遊園地と近隣の公園での遊びの違いを理解し、子どもの遊びへの工夫が養えるような場を考え、利用しましょう。
- ・ 久々にお里帰りされる方もおられるでしょう。ご家族との繋がりを豊かに、大切に
- ・ 時制（時の刻みを自分の身体で感じられるように）を身につけてみましょう。
- ・ お手伝いを通して、文字・数字、そして段取りをつけることなどにも親しむ機会を持ってみましょう。（強要はダメですよ。楽しんでできるように）
- ・ 新しい経験の中に生き物の図鑑や地図などの活用をお勧めします。
特にオリンピックが開催されることを受けて、世界にはどのような国があるのか、TVやニュースを通して世界に目を向けてみましょう。食卓の話題として取り上げてみてください。
- ・ 絵本をいっぱい読んであげられるように、目標を決めるのも大切です。

（本の冊数のみでなく1週間に何日読んであげられたかな？年齢により、同じ本の繰り返しも大切です。）

（読めても読んであげてください。子どもが読む時は声を出させてください。）

☆安心・安全に心がけましょう。

- ・ 子どもたちの自転車の一人乗りには、必ず！前を走らせてください。

・子どものおつかいには、常に安心安全を確認しましょう。

[クラスだより]

<花組>

街路樹の綺麗な紫陽花は準備万端なのに、梅雨入りがこんなに待ち遠しく思ったのは初めてです。梅雨の恵みの雨を受けて美しく彩る緑や虫たちに目と心に向けるのも季節の楽しみです。そして、あの雲の向こうに梅雨明けした真っ青な空が待っている。子どもたちが待ちに待った夏がやってきます。

7月の月主題は「こちよく」です。今年の夏はまた酷暑、猛暑、炎暑などと体調を気遣う夏になるのでしょうか。そんな夏に備えて、今、子どもたちの身体に起きている不安、鼻水や咳、目やにお肌の乾燥等が続くこと、しっかりと取り除いてあげたいですね。大人の身体でも鼻水や咳、目やにが続いていくと不快でストレスになります。それが、僅か3歳・4歳のまだまだ幼い子どもたちの身体に…自分の身体に感じる不快を表す表現をまだ多くは持ち合わせていない幼い子どもたちの負担はどれ程のものなのかな。と私たち大人が想像してあげたいな、そして子どもたちが「こちよく」毎日過ごせるように守ってあげたいな、と思います。

入園から3ヶ月が経ちました。7月から可愛い可愛い小花ちゃんをお二人も！お迎えします。可愛いですよ～！pre-preちゃんとして今まで一緒に遊び、午後からの時間と一緒に過ごしていましたが、やはり小花ちゃんとして同じ花組さんにお迎えするとなると、子どもたちの意識は大きく変化します。お互いに良い刺激となり、また成長し合えることが嬉しく、本当に楽しみです。花組の子どもたちはお兄さん・お姉さんの顔になってきつと親切に出来そうな予感です。それが出来る花組の子どもたちだと確信しております。4月に花組になってから様々な場面で赤組・緑組のお兄さん・お姉さんの姿に目を向け、沢山助けてもらってきました。その心の通った温かい経験はとても「こちよく」時に不安や緊張を和らげ安心に変えてくれました。そんな経験をしてきた花組さん、きつとこれから迎えてゆく小花ちゃんにも思いやりを持って楽しい交わりの時を過ごせると信じています。また子どもたちの様子をクラスだよりなどでもお伝えしてゆきたいと考えています。実際に子どもたちの様子をご覧いただくことも出来ますので、参観をご希望の場合はご相談ください。

7月を迎えたら、もうあっという間に夏休み。頑張って取り組んだ七夕制作もお持ち帰りして…。そして、いよいよ初めての行事！『夏のお楽しみ会』です。どうぞ可愛い子どもたちの姿！お楽しみに♪

私たちは、毎日神様に「今日も新しい朝をお与えくださいましてありがとうございます」と可愛い子どもたちとお祈りして、毎日楽しい園生活を過ごし、可愛い子どもたちの成長に喜びを感じ、笑い合って、三食お腹を満たして、毎日お風呂に入って身体を清潔に保ち、今日の一日を思いながら明日を思い眠りにつきます。本当に「こちよく」暮らしています。しかし、世界には痛みや苦しみ悲しみのうちにある国、人々が沢山いるということ。私たちの力は小さいけれど、決して忘れず心に留めて、世界中の人々が等しく「こちよく」暮らすことが出来る日を願い、考えながら子どもたちと共に毎日お祈りをお捧げしたいと思います。

＜赤組＞

京都特有の蒸し暑さで、何もしていなくても外にいただけで額にじんわり汗がにじみ出て「ん～暑い！」と思わず言ってしまうようになり、夏までの準備期間「梅雨」が始まったなと感じます。この時期になると、子どもたちは幼稚園に着くと裸足になり「はだしようちえん」の始まりです。素足で床の冷たさ、砂の感触などを感じ、気持ち良く毎日過ごしています。また、暑い日には「プールに入りたーい！」と子どもたち。お待ちかねのプールは園庭に設置されましたが、毎日雨や曇り模様で、プール日和は一体いつになるのでしょうか。設置された次の日には子どもたちでプールの準備をしました。マットを運んで敷いたり、プール内を雑巾でお掃除です！毎週末に床の雑巾掛けをしているので雑巾の扱いはお手のもの！お掃除ももちろんしてくれましたが、「濡れちゃった～」と言いながらわざと寝転んでみたり、、、気分是水遊びで少しの時間でしたがプール遊びを楽しめました。少しでも水遊びが出来そうなら、気温や水温をみながら水遊びを致しますので、健康チェックシートとプールバッグのご準備をよろしくお願い致します。

さて、マリア幼稚園の登園時間は基本的に8時30分です。（2号認定や希望者を除きます。）ある日、その8時30分になると、1人目の女の子がぴよこっと登園！「あら！早いね～！」と言い、朝のご挨拶をすると、本人もどこか嬉しそうにニコニコこちらを見ながらご挨拶。一緒に赤組の部屋でお話しをしていると、次々に赤組さんが揃ってきました。「あ！〇〇ちゃんが来た！」と子どもたち同士も嬉しそうに伝え合います。シール帳面にシールを貼る机が満員だけれど文句なんて聞こえず「何貼るの？」と、何だか楽しそうな雰囲気♪その中で「今日どこだっけ」と迷うお友だちに、お当番表の日付やシール帳面を指さして教えてあげる隣のお友だち。「そうか、ありがとう」と言い、そのまま会話が再開されます。朝からお友だちとご準備を共にして自然と遊びに入る…当たり前だけれど何だか微笑ましい瞬間でした。今までなら自分だけ！だったのがこうして毎日関わる中で、お友だちの「存在」に気づき始めました。もちろん以前が無関心だったわけではありません。最近になって「一緒に遊ぼう」と誘い合ったり、お友だちの新しく出来たこと（スキップや怖かったことが出来たなど）を共に喜びあったり、出欠を気にして全員出席の日は大喜びしたり…と、「いつも隣にいる何だか楽しい存在」に気づいた様子です。7人の少人数でも一つの集団として生活し、まさしく社会性を養っている途中です。「先生、私、〇〇ちゃん大好きやねん！」それを聞いていた他のお友だちが「私は赤組さんみんなが大好きだよ！」「あ、私も！」と何とも可愛く、嬉しい場面もありました！まずは一步踏み出した赤組のみんな。この先におつかり合うこともあると思いますがそれも成長の大事な過程です。これからも見守り、時には援助していこうと思います。

6月中旬から作り始めた「七夕制作」を赤組の部屋のドアに貼っています。それを見て数えながら「こんなに作ったんだ！」と驚く子どもたち。最初は先生の説明を聞く時間が退屈でよそ見をしていたこともあったり、思うように出来なくて「嫌だ」と涙したり苦戦したこともありました。けれど制作を重ねるごとに、制作への楽しさも芽生え「今日は何作るの？」と目を輝かせて聞いてくれます。また、説明を聞こうとして集中する力がついたり、聞いたことで自分が迷わずに出来ることに気がつきました。一つひとつの作品に意味があり、また、諦めずに最後まで丁寧に取り組める力もつけてきた子どもたちの思いや頑張り

詰まっています。ぜひご家庭で「これはどうして作ったの？」と会話を楽しみながらお飾りしていただけたらと思います。持ち帰りをお楽しみにしていて下さいね。

<緑組>

昼食後「ごちそうさま」の前の休憩のひと時。花組の頃から食事を終えると「いいい さい さあ〜ん しい〜い…」と数を数えてお腹を休めることを習慣にしてきました。これは年長になっても変わりません。食事を終えた子から、個々に休憩をするように年齢と共に方法は変わっていきますが、今、緑組の休憩はちょっとおもしろいことになっています。数を数えることはもちろんなのですが…野菜の苗を植えたときには、野菜の種類をそれぞれ10回ずつ数える「トマト・トマト・トマト…」と。動物園に行ったときには動物園で出会った動物を5種類10回ずつ…とか、数え方もオプションで「普通の声」とか「小さい声」とか「心の中で」「サイレントで」…とバージョンもいろいろあり、指を折りながら10回同じ単語を繰り返している緑組は、私から見てるととても可愛らしいです。給食のメニューを数えるときには、メニューを覚えるのに一苦労で…「人参しりしりとひじきは数えたけど、あとなんやった？」と周りの友達に確認している姿もあって、「ごちそうさま」に辿り着くまでに、子どもたちは数だけでなく、単語、その日のテーマ、分からなければ伝え合うコミュニケーション…といろいろな繋がりを経て歯磨きに辿り着きます。もちろん、多少の「数えたつもり」もあるとは思いますが、食事中から「先生、今日の休憩何にする？」と話題にあげながら一緒に食事が出来るのは楽しいものです。一つのもをを通して、新たなものに繋がりを見出していく。そんな楽しみが増えていくといいなあと考えています。以前クラス便りでお知らせしていた「生き物」の種別やその違いについても、同様の考えです。子どもたちが「知っているもの」の範囲が広がれば、今以上に関心と探求心をもって「知っている」の一步先の関りを求めてくれるのではないかな？との想いからです。その後、子どもたちと共に読み進めた本「ぼくらものみんな生きている」（動物が虐待等の内容も含まれているので、この内容には触れていません。主に、子どもたちが見たことのある昆虫や爬虫類を主として選びました）を読み終えたとき、このまま「生き物」に関するお話を読んで欲しい！という子どもたちからのリクエストがありました。一方で、緑組は創造力の宝庫です。イメージーションを形にする、表現することが大好きです。七夕制作をしていても、個々の力量、集中力の高さに驚かされますし、何より一つの物体に、何かしらの手を加えることで変化することを想像し目に見える形になったときの喜びと、互いへの称賛を忘れません。そんな緑組だからこそ、空想の世界「物語」の読んで欲しいという希望もありました。知識、知能を蓄えながら、想像・創造力を鍛えて大いに楽しめたなら、子どもたちの世界はもっと大きく広がっていくように感じています。文字や数字が書けるなどの技能面ではなく、子どもたちの「知っているう！」の一步先にある「知らあん/わからあん」をそのままにせずに、一緒に「なんだろう！？」と考える時間を大切にしたいなあと思います。

さて、7月、気が付けば1学期があと20日！なんと早いことでしょう。遅い梅雨入りで豪雨予報、更には猛暑も予想される今夏…。季節の代わり目、体調に留意しつつ1学期の締めくくりに向かいたいと思います。